

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念のもと以下のような個別対応を実施。 ・毎週日曜日に教会の礼拝に出かける。 ・畑を耕し農作物を育てる。 ・長岡天神へ毎日の散歩。鯉の餌やり。四季を通じ季節感を味わう。 ・近所のショップでは、毎週テレビガイドを取り置き、クリーニング店でも顔馴染みになって地域の方々に支えられている。	<input checked="" type="radio"/> 教会送迎について現状はスタッフ対応であるが、送迎にひとりのスタッフが欠けることにより他者にしわ寄せがかかる為、教会の方やボランティア・ご家族に理解をしてもらって、個人の生きがい援助の方法を考えていく。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・ユニット会議でモニタリングし、日々の生活の中でその人らしい生活を送って頂けるよう共有している。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	・運営推進会議を通じ、ユニットの日々の生活を報告する。 ・2カ月に1度の広報誌の作成。 ・来所された時に援助計画の評価や日頃の生活を話す。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・出会ったときに挨拶を交わす。 ・ホームの近所の方から作った野菜を頂く。 ・作っている農作物を通じ、種蒔きや育て方などを教えてもらう。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・ガラシャ祭りや地域の夏祭りに参加し、交流を深める。 ・カトリック幼稚園の定期的な来所により、歌を歌ったり作品作りを利用者と共に行ったり、園児たちのパワーを貰っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・長岡京市やすらぎ支援講座の方を受け入れると共に、認知症ケアを地域住民や学識経験者と共に考え、ケアの質の向上に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・ユニット会議で全スタッフが自己評価に取り組むことで、問題点・改善点を明らかにしていく。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2カ月に1度、運営推進委員会が開催され、ユニットの現状を報告し、意見を頂いてサービスに活かす。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・市や社会福祉協議会で協働のとりくみも多く、認知症ケアについて地域と共に認識を広める活動をしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・成年後見制度に関して、ユニット内で2名の方が活用されている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待はあってはならないものと考えている。身体的及び言葉による虐待も、ユニット内で話し合い、家族の意見も踏まえ安全確保に注意し、対応している。 ・外部研修に出る機会を多く持ち、自分たちのケアについて振り返ることを大切に考えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約の前に利用希望者は、お試し入居があり、ご本人・ご家族の納得の上、入所となる。 ・退去については、死亡か入院で常時の医療管理が必要となった場合である。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・直接スタッフに話してもらえぬ雰囲気作りをする。 ・言葉で伝えられない方は、表情や態度から伝えんとすることを汲み取る。 ・市の調整により3月まで介護相談員が2カ月に1度来所していただき、貴重なご意見を承った。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・家族来所時、最近の様子を報告している。 ・金銭管理に関しては、毎月出納帳のコピー・領収書のコピーを郵送している。 ・3カ月に1度、生活援助計画をご本人の意見・ご家族の意見を取り入れ、作成して評価を伝える。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情処理箱が設置されている為、その検討及び対処をする。 ・ご家族来所時、話し合いの機会を設けている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・個別面談も設けられ、その中で日頃の気づく課題点や今後、どうして行きたいかなどの方向付けを管理者に伝え、各スタッフの思いや組織としての運営に活かされている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・朝の散歩時、他フロアからの応援を依頼し、散歩に出かけてもらうなど勤務の調整に努める。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・やむを得ず離職する場合、ケアの質が異ならないように、研修期間勤務をしてもらい、利用者のダメージを防ぐよう努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・外部研修に出た場合、ユニット会議で報告し、ケアに繋げている。</p> <p>・資格取得のための援助や資格手当が支給されている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・市域内で同業者のネットワークや個人的なつながりなどが多くコミュニケーションが深い連携である。</p> <p>・市の主催の同業者の勉強会や研修会もあり、お互いの情報交換の場もある。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・年2回の職員レクリエーションが行なわれているほか、会社幹部の面談も取り入れられている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・自分を高めるためには研修会に積極的に参加し、知識や介護技術を磨きたいと各スタッフの思いがある。</p> <p>・様々な研修の情報を共有し活用している。</p> <p>・資格取得や手当での援助がある。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・初期面談は管理者とユニットリーダーがお宅を訪問し、ご本人及びご家族の聞き取り調査を行なっている。</p> <p>・生まれてからの経歴や現在の思い、将来の希望など詳細を記録に残している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・事前面談にて、その人らしい生活を送って頂く為に、今迄使用していた調度品の持ち込みや、趣味を聞き出し、生活の場に取り入れるよう工夫する。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入所当初、不安感の除去、生活の場であることを認識して頂く為に、無理なく日常生活に馴染んで貰えるよう配慮していく。(1カ月援助計画の作成)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・生活に馴染む迄、傾聴を重視し、本人の出来る事、したい事を観察しながら、違和感なく気兼ねなく他者の中に入れるように配慮していく。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・人生の大先輩として学ばせて貰う事の多い時であり、本人の気持ちを共有しつつ出来ない所を支えていく関係を築く。 ・共に人と人としての関係を深めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・運営理念のもと「家族」と共に日々の暮らしを組み立てている。 ・家族の気持ち、思いを傾聴し、心を共有した上で一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・家族が居室に宿泊されたり、家族旅行に出られることも多くある。家族来所時は気兼ねなく過ごせる場所(リビング・居室)を使用してもらう。又、家族との外出では、買い物・喫茶店などに出かけられる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・趣味を通じての友人関係が続き、年に4～5回の来所がある。 ・馴染みの電気屋さんとの付き合いの継続。 ・年に2～3回、自宅に外泊し、美容室に出かけるなど、個別に対応する。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・生活の流れの中、食事の準備・掃除・洗濯物たたみなど、それぞれが出来る事を分担し、利用者同士支え合えるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・退去後や亡くなられた場合でもご家族は不用品を寄付して下さったり、ボランティア参加して下さるなどお付き合いが続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日常のコミュニケーション活動・行動の中から、1人ひとりの思いや希望の把握に努めている。 ・またユニット会議を通してスタッフ全員が一人ひとりの状況を把握している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・事前調査で把握する。入所後もご本人やご家族から折にふれ聞き取り記録に残す。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・バイタルチェックで日々の心身の状態の把握と共に、日常生活の流れの中でも心身状態の観察及び、洞察にて細かいことも把握して記録に残す。 ・心身状態に適したケアを提供する。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・ご本人やご家族の意見を元に、ユニットでケアカンファレンスをした上で、意見を出し合い、ケアプランを作成する。 ・必要なときにはかかりつけ医の意見も照合する。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・入所後1カ月、落ち着いて3カ月の援助計画を立てているが、大きな変化があれば、その都度援助計画の見直しの必要はある。尚、モニタリングは1カ月毎に行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子やケアをケース記録に残し、それを元にアセスメント・モニタリングをして記録にし、次の援助計画の基本とする。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・居宅事業と訪問ヘルパーステーションが併設しており、ケアの情報交換をする事もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・地域の保育園が主催する催し物に関して、ボランティアさんと参加する。(七夕祭り、コサージュ作り) ・月に2度、絵の会や書道教室など、ボランティアさんに来てもらい、充実した時間を過ごしている。	○	今後、拡大していけるよう努力したい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・ご家族の希望とかかりつけ医の紹介により、退院後のリハビリのため、医療保険による訪問リハビリを取り入れられたことがある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・地域包括支援センターの主任ケアマネが運営推進会議のメンバーであるので、権利擁護を含む地域資源の活用など協働で利用者の支援をしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・2週間に1度、訪問診察を受ける体制も整っている。又、かかりつけ医に診察に行かれる利用者も3名いる中、適時連絡が取れ、安心して暮らしてもらっている。24時間オンコール連携体制の方もユニットに2名いる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	・訪問看護ステーションとの連携予定
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・プライドを傷つけないように発言に気をつける対応をしている。 ・プライバシー保護については教育体制と共に日常的にスタッフ相互に注意し合う。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・ユニットで外出に出かけた時など自己決定で食品を選ぶ。 ・毎日の洋服も重度化になっても選んでいただけるように支援している	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・何がしたいのかを言葉や行動から察し、願いが叶うように模索する。 ・趣味に生きがいを持っている利用者は、より向上心をかきたてられる様なアドバイス及び働きかけをする。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容美容は本人の望む店に行けるように努めている	・自分の行きつけの美容室に家族と共に出かけたり、外泊して行く利用者もいる。 ・近くの美容室に毛染めとパーマに出かける方もいる。 ・普段着と外出着を区別する。 ・身だしなみ、服装をスタッフも一緒に整える。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者の役割として、一緒に食事作りを行なう。また後片付けまで一連の作業として楽しんで行い支援をしている。 ・ある材料で、昔作った料理も時々取り入れるなど工夫も行なっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・おやつは好みを聞いたり、手作りで一緒に作ったりする。 ・好きなオヤツを近くの店に買いに出る。また家族からの差し入れに関しては、賞味期限を確認し安全に気をつける。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・失敗しても排尿・排便があったことを喜べる声かけを行なう。 ・水分摂取量の確認と利用者が置かれている環境をチェックし対処していく。 ・尿意・便意が判らない方に対しても、パットは使用せずトイレ誘導する。トイレで用が足せたことの喜びを共感する。 		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が希望する時間に入浴できるよう配慮する。 ・カットや外出後に1日2回の入浴をする利用者もいる。 ・希望が叶うよう配慮している。 ・湯船につかり、リラックスでき楽しんでもらう。 		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・環境を整えた後、安心して入眠できるよう言葉かけを行なう。 ・夜間トイレ誘導のこともあり、時間を見計らって誘導する。 ・日中、メリハリのある活動をし、安眠できるよう心がけている。 ・本人の体調や機能低下もあり、ペースに合わせて日中、横になる方もある。 		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・役割を通して存在感、満足感を得てもらう。 ・趣味を活かし、有意義な時間の活用をする。 ・残存機能を活用することにより、気力の向上となるよう努める。 ・気晴らしのドライブ、催し物に参加する。 	○	・重度化や機能低下による「役割」や「楽しみ」の個別ケアの充実には創意工夫が必要である。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者自身がお金の管理をしている方が1名いる。 ・必要なものを購入する為に、自分で選択し購入する事もある。(預かり金使用) ・金銭管理ができない利用者に関して、持っている事で安心に繋がる方は、家族と相談し所持してもらっている。 		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の長岡天神への散歩。近隣の散歩コース。 ・ドライブ・買い物など、出来るだけ希望に添えるよう努力している。 		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・遠出外出・みかん狩り・もみじ狩り・バーベキューと、野外で楽しむ行事もある。又、家族で旅行される方もある。 		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・携帯電話を持っている利用者は、自由にかけている。(2名) ・FAXレターでご家族と交換日誌を楽しんでいる利用者が1名 ・近くに郵便局もあり、自由に利用し、便りのやりとりも行なっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・居室でゆっくり話してもらったり、利用者と共に近くの喫茶店に出かけたりと、自由に行なえる。 ・ご家族は時間制限もなく自由に出入りでき、また宿泊も可能である。(毎月のように宿泊される方もある) ・他家族とも共有リビングで過ごされることもあり、お互いの馴染みの関係性も築かれている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・椅子に座ると自分の意思で移動できない方に関しては、トイレ誘導や食材取りと日常生活の活動に沿ってなるべく移動してもらう。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・利用者自身が外出時などプライベート保護のため、ご自分の部屋に鍵をかけることはあるが、スタッフがかけることはない。 ・ホーム内外はオープンである。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・所在の確認の徹底、個々人の様子の把握をしている。 ・自由に出かけたいときはスタッフが必ず同行する。(転倒防止と徘徊防止)		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・台所の包丁・はさみ・針など、見守りの中使用する。 ・誤飲の危険性については、それぞれの認知症状を把握した上で対応をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・転倒防止の見守りや介助が出来る場所にいる。 ・ヒヤリハット、事故報告書の記入により、再発防止に努める。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・普通救命講習会や応急手当普及員講座に参加し、修了証を持つスタッフが多い。	○	全員が修得できるようにしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・年2回火災訓練があり、利用者も参加することにより、よりスムーズに非難できるよう工夫している。更に、非難経路の確保に努める。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・利用者ごとに起こり得るリスクについて、ご家族には説明をしたり相談をしている。 ・リスク管理には徹底しながら安全第一に考え、抑圧感のない暮らしを築けるよう最大限の配慮を心がけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・様観する場合、申し送りの徹底を行なう。 ・急を要する場合は、リーダーや管理者に連絡後、かかりつけ医に連絡し指示を受ける。更に家族への連絡も行なう。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬の減量時・増量時、臨時薬が出た場合、特に気をつけている。服薬管理表にサインをし徹底する。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・バイタルチェック表を確認し、水分・運動(散歩など)に気を配っている。 ・かかりつけ医による下剤管理の方もあり、排便チェックを行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後のケアの声かけと、自分で出来ない方に関しては口腔ケア介助をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食事摂取量、水分チェック表を記入することにより、健康の目安としている。 ・栄養士に栄養サポートをしてもらっている。 	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に心がけていることとして、インフルエンザ対策については、外出より帰所後、手洗いとうがいの施行とウェルパス消毒を徹底する。 ・ノロウイルス対策としては、手すり・ドアノブ・床など、ハイター消毒する。 	
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食品安全管理が徹底され、社内巡視もある。 ・毎日使用する布巾やまな板は煮沸消毒。三角コーナーのごみ箱はハイター及び煮沸消毒。 ・調理した食材で残り物は、その時に処分する。冷蔵庫内も食品を管理し、賞味期限の確認などを行い、安全管理に気を配る。 	
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関はいつも出入り可能である。 ・周囲はガーデニングがあり、くつろげるようにベンチが置かれている。 	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングでは、季節感を取り入れるため、季節の花を飾る。 ・利用者の描いた季節感ある水彩画の展示や写真の展示をしている。 ・観葉植物を利用者と一緒に育てるなど、癒しの空間に努めている。 	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングではソファの配置の工夫など、居場所の工夫をする。 ・2間の居室をもたれているので、寝室以外のお部屋で気の合う利用者同士でくつろぎの場となっている。 	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・今まで使用していた思い出のもの、生活必需品、趣味の道具など持ち込んでもらい、利用者が安心して生活できるようご家族とともに空間作りの工夫に努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・起床後は、退室してから窓の開放を必ずしている。 ・冬場の乾燥防止、加湿の工夫に合わせ、加湿器・除湿器を配置している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・手すりの設置が施されている。 ・ADL低下による個人にあった入浴スタイルをとる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・トイレ・浴室・居室にプレートをかける。 ・スタッフの寄り添いの中で混乱は防いでいる。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・ベランダをオープンカフェとして利用しているほか、洗濯干し場として活用する。 ・自由に出る事により、季節を身体で感じたり、新鮮な空気を吸う事により、気分転換も図れる。 ・裏の畑で野菜作りをし、種蒔きから収穫まで楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・開設から5年の経過の中で24名のうち15名が当初から継続して暮らしていただき、身体的にも認知症も低下が緩やかである。
- ・地域信頼のもと、入居希望者が毎月増え続けている（待機者が増えつづけ、待機者のフォローを地域包括支援センターと共に考えている）
- ・それぞれの利用者のかかりつけ医との連携が深く、地域として医療管理のあり方を考えていける。
- ・様々な大学とのコラボレーションの取り組みにより、研究や取り組みが利用者の生活機能やスタッフの質向上に反映されている。
- ・ご家族と地域との関係が深く、ご利用者にとって生活の継続と安心につながっている。